

講演要旨

『ブルーカーボン』

今から約 14 年前の 2009 年に、海洋生物によって大気中の CO₂ が取り込まれ、海洋生態系内に貯留された炭素のことを国連環境計画（UNEP）が初めて「ブルーカーボン」と名付けた。当時はこの言葉を知っている人はもちろんほぼ皆無であったが、現在では毎日のように新聞や雑誌に登場するようになり、テレビではクイズ番組の問題として取り上げられるまでになった。そこで、ブルーカーボンに関する研究動向、国による検討と政策化、自治体や民間企業の参画、環境価値の取引などによる社会実装化、といったことを紹介する。